

今月の言葉

思い通りに
ならない
ことがある

昔、お釈迦様の時代に、ようやく授かった我が子を突然亡くした女性がいました。

「この子を生き返らせて下さい！」その女性は狂ったように町中を歩きまわります。子ども死体は腐り始め、臭いがしています。

「私はその薬を作ってあげよう」そう声をかけたのはお釈迦様です。

「薬の原料となる芥子の実を、一度も死者を出したことはない家からもらってきなさい」

言われた通り女性は家々を訪ねて回ります。しかし、どの家も死者を出した家ばかりです。家を訪ねるごとに狂気は静まっていきます。

「女よ、芥子の実はもらってきたか。」

女性は答えます。「いいえ、もう薬はいりません。この子を茶毘（だび）にふしてやります」